

命を守るために自分ができること

御津南部小・4 石黒 小梅

小学校に入学して、初めてのひなん訓練。

「ガッシャーン。」

「バリン。バリン。」

「ゴゴゴオー。」

という音が放送から聞こえてきて、先生の言う通りにつくえの下にひなんしました。保育園のときとちがって音がすごかったので、本当の地しんかと思いびつくりしたことを今でも覚えています。

三年生のとき、地しん体験車でしん度一からしん度七ぐらいまでを、友達と体験したことがあります。体験車の中には、つくえ一つといすが四つありました。最初はゆつくりゆれて、だんだん大きなゆれになりました。つくえもいすも動いて、すわっていることしかできず、

「きやー。きやー。」

とただたださけぶだけでした。東日本大しんさいで本当にこんなことが起こったんだと思うと、おどろいたし、心ぞうがどくどくしてこわかったです。

今年の四月、学校のじゅ業中にしん度三の地しんが起きました。

始めは、

「ドーン。」

という音がして、つくえが横に少し動きました。先生の指じを聞いて、つくえの下にかくれました。何秒かゆれている間、心ぞうのどきどきする音が聞こえました。わたしが感じたことのある地しんの中では一番ゆれたので、つ波がくるのかなと、すごくこわくて心配でした。ゆれがおさまって少ししてから、

「つ波の心配はありません。」

と放送があったので安心しました。しん度が小さかったからか、きんきゆう地しん速ほうが鳴らなかつたので、心配になりました。

小学校のそう合的な学習の時間のじゅ業で、ぼうさいのことについて勉強しています。地しんがあつたときのひじょう持ち出し品や、自分たちが住んでいる地いきのハザードマップ、自分のひなん場所などについて学習しました。ひじょう持ち出し品の学習をしているとき、たくさん必要な物があるんだなと思いました。今、家にあるわたしのぼうさいバックには、水、マスク、タオル、ライト、着がえ、おもちゃしか入っていないなかつたので、足りない物がたくさんあることがわかり、心配になりました。

また、ぼうさいについて自分が調べる必要があると思ったことが二つあります。一つは、家から小学校へひなんするときの安全な道です。川やくずれそうな建物をさけてひなんしたいです。もう一つは、家の中の家具はたおれてこないように固定されているかです。家に帰ったらかくにんをして、家族と話をしようと思いました。

夏休みの宿題で、家族ぼうさい会議を開こうという学習がありました。まずは家族でぼうさいバックの中身について話し合いました。お姉ちゃんやお母さんは、わたしが用意していなかつた、かんぱんなどのほぞんのきく食料、お金、ラジオ、モバイルバッテリー、犬のえさ、ほけんしょうのコピーなど、たくさん物を用意していま

した。わたしも、家族のぼうさいバツクの中身を真ねして、じゅん
びし直そうと思いました。

次に、家族がそれぞれ別の場所にいたらどこに集まるかについて
話し合いました。学校のある日は、それぞれ学校で待つことにしま
した。学校のない日は、ひなん場所をわたしの通っている小学校に
しました。川の近くを通らないように、歩道橋をわたらないように、
ひなんけいろを工夫しました。なるべく広い道をつけながら歩
いてひなんするように、家族のみんなで決めました。今まで家族の
みんなでしっかりぼうさいについて話し合いをしたことがなかった
ので、家族とたくさんかくにんができてよかったです。

学校や家で、東日本大しんさいの実さいのえいぞうを觀ました。
地しんが起きてしばらくすると、つ波が海岸までせまってきたいま
した。その後、家の二階くらいまでつ波がおしよせてきて、つ波は
本当におそろしいなと思いました。わたしの家は、海からすぐ近く
なので、大きな地しんが起きたら、つ波が来る前に何よりもすぐひ
なんしなくてはいけないと思いました。

学校や家で話し合いをすることで、本当に地しんが起こったとき、
少しでもパニックにならないで動けるようになると思えました。か
こに起こったできごとは、もう変えることはできないけど、これか
ら起こる地しんに対するわたしたちの意しきは変えられます。話し
合いをしたことを思い出して、決めたことはぜつ対守ってひなん
できるようにしたいです。もし本当に地しんが起きてしまっても、学
んだことを家族や周りの人に広めることで、一人でも多くの人が救
われてほしいです。